

## 1. 看護補助者の配置と役割の明確化による業務分担の推進

看護職員が専門性の高い業務に専念できる環境を構築するため、看護補助者を看護チームの一員として適切に配置し、役割分担を明確化する。

### 具体的対策

- 専門的判断を要しない療養生活上の世話、環境整備、書類作成代行等の周辺業務を看護補助者へ委ね、看護師の直接ケア時間の確保と負担軽減を図る。
- 看護補助者のスキルアップと倫理的判断力を高めるため、「患者への倫理的配慮と適切な対応」に関する院内研修を実施し、チーム医療の一員としての質の向上と定着を促進する。

## 2. 病棟クラークおよび外来クラークの活用による事務負担の軽減

入退院支援や外来診療における事務的業務を多職種で分担し、看護師の業務効率化を図る。

### 具体的対策

- 病棟クラークによる事務的業務の代行を推進し、看護師のデスクワーク時間を削減する。
- 患者サポートセンターとの連携を強化し、外来段階での問診聞き取りや情報収集を徹底することで、病棟・外来看護師双方の事務的・心理的負担を軽減する。

## 3. 臨床工学技士・臨床検査技師との連携によるタスクシフトシェアの強化

看護職員の専門性発揮と長時間労働の抑制を目的に、臨床工学技士および臨床検査技師への業務移管（タスク・シフト／シェア）を強力に推進する。

### ● 臨床工学技士による業務拡大

従来の血液浄化業務に加え、内視鏡室における診療応援や医療機器管理、周辺業務の分担を拡大し、看護師が患者ケアに専念できる体制を構築する。

### ● 臨床検査技師による業務拡大

採血業務の集約化を継続・推進するとともに、「医師事務作業補助的業務」への参画を拡大し、看護における事務的負担を分散する。

## 4. DX（デジタルトランスフォーメーション）推進による労働環境の整備

ICT技術を活用し、看護師の動線削減と迅速な情報共有を実現する。

### 具体的対策

- スマートフォン連携型ナースコールシステムへの更新を検討し、場所を選ばないリアルタイムな情報共有体制を構築する。これにより、無駄な呼び出しや動線を削減し、スタッフの身体的・精神的負担の軽減を目指す。

## 5. 教育・育成体制の充実を通じた働きがいのある職場づくり

多職種が共に学び、教え合う文化を醸成することで、心理的安全性の高い職場環境を構築し、離職防止と処遇改善に繋げる。

### 具体的対策

- 看護学生の実習受け入れや臨床研修医への指導・連携を通じ、指導側・受ける側双方が成長できる教育環境を整える。
- 個々のキャリア形成に配慮した支援を行い、管理・臨床の両側面から柔軟な働き方を促進することで、看護職員のモチベーション維持と定着を図る。

※ 目標に対する評価基準日は令和9年4月1日

※ 達成度（目標に対する実績評価） ◎：100% ○：80%～99% ▲：30%～79% △：1%～29% ×：0%

2026年4月20日 看護部